

ヘーゲルの媒介思想

大田孝太郎 著 4,000円+税 ISBN978-4-86327-440-2

ヘーゲル哲学の核心にある「媒介」の思想の成立過程を、当時の時代状況と思想史的背景から新たに読み解くことによって、「弁証法」の復権をはかる。

大田孝太郎 著
ヘーゲルの媒介思想

溪水社

第一章 ヘーゲルの媒介思想

「反省」(あるいは「悟性」と「媒介」)／「民族宗教」の構想と「回り道」(＝媒介)の教義としてのキリスト教の批判／『キリスト教の既成性』—イエスの「権威」を媒介とするキリスト教の批判／『信仰と存在』(一七九八年)—フランクフルト期のヘーゲルにおける「信仰」と「理性」／「生」と「愛」／「愛」と「反省」／「批判的」理性から「弁証法的」理性へ／イェーナ期—媒介概念の成立

第二章 若き日の理想の展開

思想的出発点／チュービンゲン期(一七八八～一七九三)—「媒介」としてのキリストの批判／ベルン期(一七九三～一七九六)—「媒介」としてのイエスの「権威」の発生史論的批判／フランクフルト期(一七九七～一八〇〇)—「愛」(直接性)と「反省」(媒介)との相剋

第三章 経済学研究への道—「反省形式」としての「所有」から全体的な「生」(＝「理想」)へ

若きヘーゲルを取り巻く政治的・宗教的状況／「私的宗教」としてのキリスト教批判と「民族精神」の形成／キリスト教と「所有」の問題／「所有」の批判から「運命」としての「所有」へ／ドイツ国家の現状と「ユダヤ教の精神」／古代ギリシアの民とユダヤの民—「所有」権の制限が生み出す対極的な民族／「所有」の運命とイエスの「愛」の宗教／「死せるもの」(「所有」)の世界から「生けるもの」の世界へ／「所有と法の体系」としての近代市民社会への内在—「政治経済学」研究へ

第四章 「生」(Leben)概念の帰趨—「生」「反省」「愛」

「生」と「概念」の間はさまざま／若き日の「理想」—「生」概念の源泉／「民族宗教」論—「生」概念の生成／『キリスト教の精神とその運命』—「生」概念の成立／「生」の認識への道

第五章 イェーナ初期のヘーゲル—「媒介」概念の成立過程

「媒介」概念成立に至るヘーゲルの思想的道程／カント哲学—「媒介」の主観化／ヤコビ哲学—「媒介」の有限化／フィヒテ哲学—「媒介」の悪無限化／「媒介」概念の構想

第六章 『精神現象学』の成立と方法の問題

『精神現象学』成立の時代背景／思想史的背景—思想史の三段階把握／「反省文化」批判／「有限性の実在論」批判／「媒介」の立場／「叙述」の方法／「限定された否定」(bestimmte Negation)

第七章 『精神現象学』「序文」(Vorrede)の考察—「媒介」概念の生誕

同時代認識と「哲学の要求」／同時代の哲学に対する批判／「媒介」の体系としての『精神現象学』の生成

第八章 媒介概念を手引きとする『精神現象学』の解明

「反省」と媒介／「自我」と媒介／「生成」と媒介

第九章 媒介としての「言語」

言語—「精神の定在」／「直観」(直接的なもの)の否定としての言語／「思惟の身体」としての言語／感覚的な「このもの」と言語—『精神現象学』冒頭章の解釈／言語の三つの性格—「記号」「名称」「ロゴス」／ヘーゲルの言語観から見た『精神現象学』理性章「頭蓋論」の解釈／「意識の定在」から「精神の定在」へ／「精神の定在」としての言語の歴史／「分裂した言語」から「良心の言語」へ

第十章 媒介としての「教養」

ゲーテとヘーゲルの教養観—人間の「自然性」の克服／ヘーゲルの教養観を貫くもの—共同的な主体への自己形成／シラーの教養観とヘーゲルへの影響／教養の主観的条件—ギムナジウム校長時代のヘーゲルの教養観／教養がめざすもの—独立不羈の社会的主体の形成／ヘーゲル教養論の核心—「疎遠なもの」(「隔離壁」)を媒介とする自己形成

ヘーゲルの媒介思想

大田孝太郎 著 4,000円+税 ISBN978-4-86327-440-2

個人・書店様注文書

お名前	ご注文冊数
ご住所 (〒)	お電話番号 ()

【書店様】
ご注文の際には
溪水社宛に FAX
をお送り下さい。

FAX
082-246-7876

番線印

◆お問合せ 直接のご注文は



溪水社

広島市中区小町1-4 (〒730-0041) TEL (082) 246-7909
E-mail info@keisui.co.jp FAX (082) 246-7876

書籍の詳しい情報はホームページで
URL: www.keisui.co.jp